

観光・産業まちづくり拠点形成の取組み

「川崎町道の駅」整備基本構想策定の支援

キーワード：観光振興、産業振興、雇用創出、都市間交流、地産地消

東北インフラ技術部
仙台支店
ますや
たかはし
亨・金淵
高橋
みゆ
秀人
とおる
かなぶち
ひでと
高橋
美優

はじめに

宮城県川崎町は仙台市の南に隣接し、古くから仙台と山形を結ぶ交通の要衝でした（図1）。川崎町は、少子高齢化や人口流出により地域産業、地域社会の維持の面で多くの課題を有しています。こうした中、川崎町では「川崎町道の駅」を拠点に、地域の観光振興、農林水産業等の産業振興、さらには働く場の提供や移住・定住につながるまちづくりを目指すこととなりました。

本稿では「川崎町道の駅」構想策定を支援した業務の内容を紹介します。



図1 宮城県川崎町の位置

進化する道の駅

一般的に道の駅は、国道等の幹線道路沿いに立地し、十分な広さの駐車場を有し、全国統一のサインや宣伝の下、誰もが知る業態モデルとして定着しています。

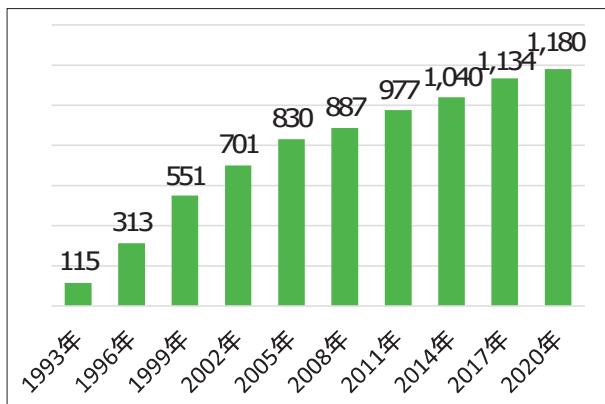


図2 道の駅の件数推移（国土交通省資料より作成）



画像1 みちのく公園 出典：川崎町



画像3 川崎町の名産品・特産品 出典：川崎町



画像2 青根温泉 出典：川崎町



画像4 川崎町の名産品・特産品 出典：川崎町

1993年の第一号道の駅の開設以来、2020年7月1日には全国で1,180箇所を数えるまでに増加しています（図2）。

道の駅は休憩・情報発信機能を基本としつつ、地域連携機能をもつ産直店、飲食店、各種体験施設に、子育て支援施設などの地域課題対応や地域の個性を提示する施設・機能も加わり、多様化、多機能化が進んでいます。当初の観光客が立寄る休憩施設から、現在では近郊のレジャーや買い物、地域連携などのための施設へと進化しています。各施設が地域固有の魅力を発揮することが集客の原動力となっており、地域活性化施設として道の駅が注目されています。このような道の駅の持つ多様な機能を踏まえながら、事業として成立し得る川崎町に適した道の駅のあるべき姿を検討しました。

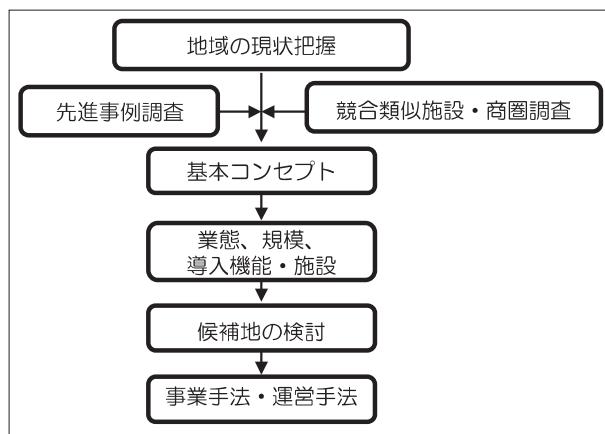


図3 業務フロー

前提条件の整理

川崎町は、北は仙台市、西は山形市と接し、両都市を結ぶ山形道、旧笛谷街道に由来する国道286号が通っています。町内には、青根・峩々温泉、セントメリースキー場、国営みちのく杜の湖畔公園をはじめとする観光施設が分布し、近郊から多くの利用客を集めています。

「川崎町道の駅」は仙台近郊に立地し、幹線交通の便が良いことを活かし、仙台～山形の都市間交流、および人々の日常利用を中心に据えて計画することが重要であると考えました。一方で、宮城県南部では既存の道の駅は少ないものの、隣接の村田町にある道の駅に加え、蔵王町では新設計画があり、仙台市側にも産直施設が進出し

ているため、競合環境は厳しいと判断しました（図4）。



図4 競合類似施設の分布状況

事業的に成立し、成果を生む道の駅のあり方を提案

「川崎町道の駅」は、恵まれた立地や交通条件、さらには町内に立地する周辺観光施設を活かすことができ、また個性としては、蔵王山麓の牧歌的景観や農林・畜産品などがあると判断し、「川崎町道の駅」のコンセプトを設定しました（図5）。

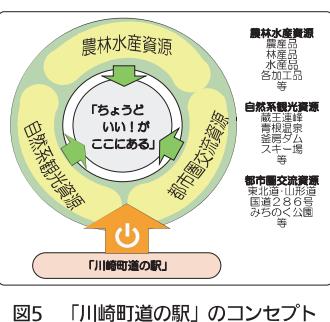


図5 「川崎町道の駅」のコンセプト

施設規模については、国道286号の交通量や川崎町と同様な条件を持つ道の駅の事例、類似・競合施設の分析を踏まえて、敷地面積約15,000m²、建物面積約1,200m²の中規模クラスの道の駅としました。

道の駅の立地場所の選定では、交通量と行動特性に基づき利用者を効果的に集客・誘導できる路線を特定した

上で、想定する敷地面積が物理的・社会的に確保できるかの評価を行い、国道286号沿線の国営みちのく杜の湖畔公園周辺の2箇所を優先候補地に選びました（図6）。

また、「川崎町道の駅」は自立した経営を目指しているので、事業化と施設の管理運営では、町外を含めた民間事業者の活力を利用する手法を提案しました。



図6 候補路線と候補地

「川崎町道の駅」実現に向けた今後の展開

今回（令和元年度）策定した基本構想を受けて、令和2年度には基本計画・基本設計、民間企業者誘致の準備を行い、2025年の完成・オープンを目指すスケジュールを立案しました。令和2年度に入り、新型コロナウィルスの感染拡大から、本事業は一旦休止となりました。し

かし、川崎町では地域農林業への影響が深刻な有害獣対策として、駆除から食用利用・特産品づくりを目指した「ジビエを核とした道の駅特産品開発計画」策定を先行させ、道の駅開業に向け全町をあげて総合的な取り組みを進めています。

おわりに

当事業が核となり地域の魅力を発信し、川崎町の観光産業、農林水産業などの地域産業の振興を促し、定住・移住のきっかけとなることを目指しています。今後、計画の推進と実現に向け、川崎町はじめ町内外の関係者や住民の方々の理解と協力が不可欠であり、当事業を契機

として、地域一体となった活動に発展していくことが期待されています。

今回の業務実施にあたり、検討会議に出席いただいた町長をはじめとし、副町長、担当職員の方々から貴重なご意見を多数賜りましたことに深く御礼申し上げます。